今月の一品 令和 3(2021)年 11 月

飯能市立博物館 きっとす 今月の一品

飯能市立博物館

明治 44 年 12 月の大通りに並んだ国旗の理由

尾崎 泰弘

現在、当館で開催中の特別展「飯能縄市」では、特別展示室東側の壁面のほぼ全面に、明治 44(1911)年 12 月 27 日に撮影された大通りの写真①を実物大に引き伸ばし展示しています。その目的は、縄市で周辺からやってきた商人たちが見世を開いた往来(道)や庭の広さを体感してもらうことにあるのですが、多くの方が写真の内容、中でも商家に国旗が掲揚されているところに注目されるようです。

①明治 44(1911)年の大通りの写真

②明治 44(1911)電話開通記念写真

その理由を解き明かすにはもう 1 枚の写真②を見ていただく必要があります。これは、この大通りの写真と同じ日に(台紙裏面に「明治四拾四年十二月廿七日」のスタンプが捺されています)、同じ篠原写真館によって撮影されたもので、「祝□話開通」の看板が掲げられた建物の前に、男性ばかり 36 人が並んでいます。そしてその入口には国旗も掲揚されています。

さらにこれには「写真袋」③が付随しています。その表面には「飯能郵便局電話開通祝賀記念撮影　明治四十四年十二月廿七日」と記されています。この写真袋も篠原写真館のものなので、この台紙付写真はこの写真袋に入れられて納品され、その後にこの文字が書かれたものと推測されます。これから国旗の影になって見えない文字は「電」ということになります。

さて、以上の事実から現在、実物サイズで展示している大通りの写真に見られるたくさんの国旗は、電話開通を祝したものと考えられます。そしての写真①のモチーフ(主題)は、「賑やかな大通り」ではなく、通りの向かって左(南)側に建てられた電話線のための電柱と考えられるのです。

③写真袋

なぜ年末の 12 月 26 日の大通りに国旗が並んでいたかおわかりいただけましたでしょうか。ぜひご来館いただき、通りに

整然と建てられた電話用の電柱、いや縄市が開かれた通りの広さをご覧下さい。

【参考文献】

飯能市郷土館 特別展「飯能の水力発電」図録　平成 17(2005)年 10 月